



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



洗礼の恵みに気づき、それを生きよう(2)

2024年 年間目標

鹿兒島教区司教 中野裕明

教区の皆さま、お元気で
しうか。

今回は洗礼の恵みについて
お話しします。イエスは宣
教活動を始めるに当たっ
て、洗礼者ヨハネから洗礼
を受けていたことは周知の
とおりです。(マタイ3・
13-17参照)

神の子であるイエスにと
って、本来なら受ける必要
のない洗礼ですが、「今は
止めないでほしい、正しい
ことをすべて行うのは、
我々にふさわしいことだ
す。」と言われ、洗礼者ヨ
ハネの断りの弁を制しまし
た。(同上、14-15節)

つまり、イエスはヨハネ
の洗礼は人間にとって、正
しく、ふさわしいことであ
るとの認証を与えたと解釈
できます。従って、私たち
は、洗礼者ヨハネの洗礼の
意味とイエスによる洗礼の
内実を検証していきたいと
思います。

旧約時代の最後の預言者
と称されるヨハネは、イエ
スに洗礼を受けた人なので
「洗礼者ヨハネ」と呼ば
れ、また、イエスの到来の
前触れとして登場している
ので、「先駆者ヨハネ」と
呼ばれて尊ばれています。
典礼暦でも「洗礼者ヨハネ

の誕生」(祭日・6月24
日)と「洗礼者聖ヨハネの
殉教」(記念日・8月29
日)に祝われています。

イエスの「誕生」と「復
活」の記念に比べて、あま
り目立ちませんが、それで
も、太陽とその光を反映す
る月のような関係性を感じ
ます。

さて、洗礼者ヨハネの洗
礼に話を戻します。彼のメ
ッセージの中心は、モーセ
の律法に立ち返れ、という
ものでした。

「そのころ、洗礼者ヨハ
ネが現れて、ユダヤの荒れ
野で宣べ伝え、『悔い改め
よ、天の国は近づいた』と
言った。」(マタイ3・1
-12、マルコ1・1-8、
ルカ3・1-9、ヨハネ
1・19-28参照)

ここで注意したいのは、
2024年前にイエスが誕
生したので、旧約時代は過
ぎ去った過去の出来事と考
えがちなところです。時間
を数える西暦は、確かにイ
エスの誕生の年を起点とし
ますが、聖書に描かれてい
る時間は、神の時間なので
す。

い永遠に今である、いわゆ
る「とき」のことをカイロ
スと表記します。従って旧
約時代の最後の預言者ヨ
ハネは、カイロスの人と考
えるべきです。つまり、人
類が人祖アダム(原罪)の
罪)から解放されてい
ない状態の人々に向けられた
メッセージであるという事
です。

神のみ旨に沿えなくて、
楽園を開放された人類を、
再びご自分の元に引き寄せ
るために、あるいは、創造
のわざを本来の姿に戻すた
めに、神はアブラハムを召
し出し、その子孫にモーセ
を通して「十戒」を授け
し、それに基づいて、部族
を束ね、イスラエルという
国家を建立(紀元前1000
年)するに至りました。

それからも紆余屈折があ
り、とうとう神が人間にな
って、寄り添って生きる態
勢になるまでの経緯を私た
ち教会は、「神の救いの計
画」と呼んでいます。

これは、戦争によって織
りなされる人類の歴史とは
本質的に異なるものです。
そして、神の救いの計画が
目指しているものが、イエ
スが提唱し、その実現のた
めに、ご自分のいのちを捧



戒」に立ち返るように呼び
かけました。
ここで、神の「十戒」を
おさらいしましょう。聖書
の原文では、出エジプト記
(20・2-17)と申命記
(5・6-21)にあります。
ここでは、カトリック
教会のカテキズム(要約)
に従って紹介します。

カテキズムの文言
わたしはあなたの主なる
神である。
(1)わたしのほかに神があつ
てはならない。
(2)あなたの神、主の名をみ
だりに唱えてはならない。
(3)主の日を心にとどめ、こ
れを聖とせよ。
(4)あなたの父母を敬え。
(5)殺してはならない。

(6)姦淫してはならない。
(7)盗んではならない。
(8)隣人に対して、偽証して
はならない。
(9)隣人の妻を欲してはなら
ない。
(10)隣人の財産を欲してはな
らない。
2024年は年初めか
ら、天災や人災による甚大
な被害が報道されていま
す。実際それらの災害は、
わが身に及んではないないか
もしれませんが、精神的ダ
メージがあります。困難
や、苦悩の中にいる状態
を、聖書は闇に例えます。
(ヨハネ1・6-18参照)
このような闇の中を歩む
民であっても、「神の十
戒」の教えから離れた生活
をしてよいとは誰も言うて
はいません。人祖アダムの

故国を離れ宣教師として生きた ヨルダン・ハンマ神父が帰天



レデンプトル会のヨル
ダン・ハンマ神父が1月6
日(土)朝、入来教会で亡
くなった。89歳だった。
ハンマ神父は1934年
12月17日、西ドイツ南部の
フリディゲンに父・ルドル
フさん、母・ユスチーナさ
んの長男として生まれた。
14歳で小神学校に入学し、
1963年4月28日、29歳
で司祭に叙階された。

叙階から7か月で来日し
たハンマ神父は谷山で日本
語を学習、1965年12月
に助任司祭として川内教会
に着任した。その後は岡

前、母国、谷山、出水、川
内、入来教会などの主任司
祭を歴任したほか、所属す
る会の鹿兒島準管区長を務
めるなどした。また鹿兒島
教区における法務代理・裁
判官としても働いたほか、
CLC担当司祭として多く
の信者に信仰に基づく生き
方を指導してきた。
そのハンマ神父の通夜は
1月12日(金)、葬儀ミサ
と告別式は翌13日(土)い
ずれも谷山教会で執り行わ
れた。中野裕明司教司式の
葬儀ミサ・告別式には各地
から30人を超える司祭ら
が駆けつけ、参列した200
人余りの信者とともに、ユ
ーモアに満ち、福音宣教に
邁進したハンマ神父との別
れを惜しんだ。
ミサで説教した中野司教
は、鹿兒島のために60年以

訃報

久保俊弘司教
鹿兒島教区の久保俊弘
身助祭(谷山教会)が1月
8日(月)午後、呼吸不全
のため搬送先の病院で亡く
なった。92歳だった。
奄美市出身の久保師は、
岐阜薬科大学卒業後、薬局

勤務を経て鹿兒島県内の公
立高校で理科教員として働
き、退職後は教区が一時管
理した老人ホームに勤務し
た。久保師は今亡き大野
和夫神父を兄に持ち、若い
頃から教会のために尽力、
特に信仰養成委員会のメン
バーとして活躍した。
その久保師が教区初の終
身助祭として叙階されたの
は2005年9月19日の鹿
兒島教区50周年記念ミサ
(於・ザビエル教会)での
ことで、小教区での働きは
もとより教師、宣教学校
のリーダーとしても活躍し
た。

久保助祭の通夜は1月9
日(火)、葬儀ミサと告別
式は1月10日(水)いづれ
も谷山教会で行われた。



生きる希望を持ち続ける

ウクライナにおける戦争体験

昨年11月8日(水)ザビエル教会であった牧師神父の会では、レデンプトル宣修道女会総長シスターテオドラからウクライナにおける悲惨な状況がインターネットを利用して報告された。会場にはキリスト教関係者だけでなく、諸宗教の代表や信者も駆けつけ、熱心にドイツからの報告を聞いた。講話の要旨を紹介したい。

レデンプトル宣修道女会 総長 シスターテオドラ

戦争は個人に対して、また周りの現実に対しても、様々な感情を描き出すきっかけとなり、未知の経験をもたらす非常に非人間的で、劇的な代物です。すべてのウクライナ人と同じように、私たちレデンプトル宣修道女会の会員は、戦争のはじめに当然のごとく早い段階で深い悲しみの中に突き落とされました。

最初、私たちはどうにかして、この恐ろしい現実を否定しようとした。しばらくすると全体の状況や苦しみの原因になっていく事柄に対して反抗と怒りの感情が出てきました。そして次に来たのが、強い空虚感と脱落感でした。そして時の経過とともに、私たちの周りの現実を受け入れることができるようになり、そのような現実の中で生きる力を見出せるようになりまし。そして自らの尊厳を保ち、できる限り努力して、自分たちの自由を守るべきという現実を悟りました。

親戚の訃報に接したり、友人が捕虜になったことを知ったり、隣人、知人が負傷して運ばれたことなどのニュースに接するたびにウクライナ人には悲嘆と惨事の感情が繰り返し起こり、また蒸し返されます。私た



Sr.テオドラからの報告を熱心に聞く

不安をもたらしませんでした。

「私たちの修道院の建物は生き残れるのだろうか?」「私たちの命は守れるのだろうか?」「という物質的課題から、感情的かつ霊的に心配の種になりました。」「虚無感と恐怖心を持ったまま、私たちは自分や他人を果たして助けることができなくなるのか?」「完全な邪悪と見えるこのような状況の中で、果たして神への信頼を失わないことが可能だろうか?」

そんなある日、とても不安を感じていた時、私は安全の喪失と無力感の理由に気づいたように思いました。私は、今日まで長い間、

悲惨な個人の体験

戦争初期の週、私にとつて最も大変だったことは、危険に対する絶え間ない恐怖心と膨れ上がる無力感でした。毎日の生活の状況を制御する事がもはやできないという事は筆舌に尽くしがたいことでした。多くの薬が不足している薬局の問題から、爆弾投下の危険を知らせる頻繁でしかも大音量のサイレンの音などを聞きながら、昼夜を問わず、室内、屋外を問わず働いた私たちの心は不安の極致でした。

安全の喪失は、次のよう

私の中に存在した感情に注目しました。そしてその感情の中にある私の主な恐れに気づきました。

それは死への恐れでした。私はそこから逃げないようにと心に決めました。そして死を受け入れようと決めました。しばらくすると、死は私の敵ではないことに気づきました。つまり、死はもはや私の運命を決める力を持たないということでした。

この信仰の体験により、私はその瞬間、すべての事柄を新鮮な感覚で捉えることができるようになりました。私は死んで復活したイエス・キリストの存在を感じたのです。彼は、私の存在のすべての部分、すなわち、もがき苦しむことと信じていること、恐れること、疑うことなどの中にイエスはいるのです。

私の恐怖感と無力感に救い主イエスの安全圏の中に避難しました。この気づきは戦時における個人的平和維持を体験できる安全圏であることに気づきました。そしてその最初で最も大切な役割は、戦争の悲惨な現実の中でできるだけ広範囲にわたって大きな犠牲を払

グレゴリオ聖歌は祈りの集い

一緒に神を賛美しませんか?

昨年10月15日(日)、ザビエル教会聖堂で「グレゴリオ聖歌」を披露してくれたグループが団員を募集している。練習は毎月第2と第3の日曜日の13時から、鴨池教会(鹿兒島市荒田2丁目53-11)で実施される。リーダーは桃蘭淳一郎助祭。

団員の1人、谷山教会所

+KABAYAN SEKSIYON+
Ang Bagong Moises
"Isang propetang tulad ko ang palilitawin ni Yaweng iyong Diyos para sa ayo mula sa iyong mga kapatid sa piling mo, siya ang pakikingan mo."(Dt 18.15)

Bago sambitin ang propesiyang ito ay may pagbabanta ang Panginoon na kapag pumasok ang mga Israelita sa Canaan, hindi nila dapat tularan ang nakagawian ng mga tao roon. Dapat ay alisin nila ang mga manghuhula, ang mga tagasabi, ang mga tagaakit ng mga hayop, ang mga tagatawag ng mga espiritu, ang mga sinasangunian sa mga usaping multo at espiritu. Ang lahat ng mga ito na paraan ng pagkontrol sa bukas ay isang "kalapastangan" sa mata ng Diyos. Sa kabilang banda, ang daan para sa Israel ay ang daan ng pananampalataya sa pagsampalataya at pagtiwala sa salita ng Panginoon na binigkas sa pamamagitan ng hinirang na tagapaghatid-balita ng Diyos ang propeta. Ang tungkulin ng propeta ay hindi ang ibalita ang mga mangyayari bukas, kundi ang ipakita "ang mukha ng Diyos."

Sa dinami-rami ng mga propeta ng Diyos na nagsasalita sa ngalan niya, kakaiba si Moises. Siya lamang ang nakapagsalita sa Panginoon nang "harap-harapan," tulad ng pakikipag-usap ng tao sa kanyang kaibigan(Ex 33.11). Higit pa sa kanyang mga himala at paghihirap alang-alang sa kanyang bayan, ang pagkamatalik na ugnayan ni Moises sa Panginoon ang naging kadluan ng Kautusan na siyang maggagabay sa Israel.

Ang aklat ng Deuteronomio naman ay nagwawakas nang may himig ng pangungulila. Buhat nang mamatay siya, "wala nang propeta ang lumitaw sa Israel na katulad ni Moises, na nakilala ng Panginoon nang harap-harapan" (Dt.34.10). Ito ang nagbibigay-daan sa isa pang mas matinding paghihintay na isang bagong Moises ang lalabas na siyang higit na dakila kaysa kanya.

Binibigyang-diin ng mga tagasulat ng Bagong Tipan na ang pangako ng bagong Moises ay natutupad sa persona ni Hesukristo.Siya ang Moisyssimus Moises-ang pinakadakilang Moises, higit na dakila kaysa sa totoong Moises. At ang dahilan ay nasa paunang-salita sa Ebanghelyo ayon kay Juan: "Walang nakakita sa Diyos.Ang bugtong na Anak, ang Diyos, na nasa tabi ng Ama, ang nagpahayag tungkol sa kanya"(Jn 1.18). Hindi natin tunay na mauunawaan kung sino si Hesus kung hindi natin siya ituturing bilang siyang tanging nakakikilala sa Diyos,hindi lamang bilang kaibigan, kundi bilang Anak.

Ang Mga Tanda ng Kaligtasan sa Biblia (Fr.Dino Orolfo)

つてもこの心の平和を守っていくことであると気づきました。

他の人の悲惨な体験

チェルニリーヴ修道院での貴重な戦争体験をお話します。

その町は首都キーウの北に位置するベラルーシ国境に近い古い町です。戦争開始から40日間に町は情け容赦のない爆撃攻撃を受けました。ロシア兵は町の中に侵入できませんでしたが、3000戸以上の家屋を破壊しました。犠牲者の正確な数は今現在公表されてい

ません。町には鉄骨や瓦礫の山が道路一面に広がり、まさに完全破壊の状態でした。私がこれまで見てきた戦争悲劇の最悪のものでした。

この街で体験したとても感動的なお話を分かち合いたいと思います。ある家族が午前中に家を離れた後、午後10時に家に戻ると、家や家を破壊しました。そして家の残骸だけが残り、家は完全に壊れてしまいました。前回は車が停めてあったガレージに住んでいます。

ところが完全に破壊された家屋の中庭に手入れの行

うし、音程は狂うので、上手に歌えず、見に来てくださった方にみつももなないところをさらしてしまったり、あと思ってしまうました。しかし、途中で気がつきませんでした。これは発表会ではない、表題にあるとおり、

感じていて、歌うというよりは祈るといふのがグレゴリオ聖歌の正しい言い方なのです。とてもよい経験をさせてくださいました。

次にこのような「祈りの集い」がいつできるのかは分かりませんが、また月ごとの練習に参加し続けたいです。いや、練習するのではなく、祈り続けます。

皆さまも一緒に祈りに参加されませんか。(谷山教会 岩崎正幸)



教会での洗礼式を終えて 改めて秘跡について考える

奄美市の名瀬聖心教会では、昨年の「王であるキリスト」の祭日（11月26日）に3人の成人洗礼があり、また新年を迎えた1月3日（水）には1人の幼児洗礼がありました。これを機に改めて教会と秘跡、そして恵みについて考えてみたいと思います。

秘跡を通じた恵みとは神様との関係であって「も」ではありません。秘跡という恵みは神様による救いがどのようにして私たちにたらされるのかを現す伝達の手段です。確かに秘跡とは一人ひとりが受けるものであり、またそれは神様が私たちと個々にそれぞれ直接関わられることを意味します。



秘跡を通じた恵みとは神様との関係であって「も」ではありません。

えます。ですから秘跡は基本的に共同体として祭儀の中で祝うのです。

個々の秘跡の恵みは私たちキリスト者全体にとって喜びであり、その喜びを分かち合うのが教会共同体です。

洗礼とは受洗者を通じて目に見えない神様の恵みが共同体の中に見えるかたちで現れたという喜びでもあり、その喜びとは何か：聖心教会で行われた洗礼式を通じて皆さん一人ひとりが受けた洗礼の恵みと喜び、そして教会は共同体であることを改めて思い起こしてもらいたいものです。（聖心教会・鈴木康由神父）

イグナチオの霊操⑧

紫原教会主任司祭 貴島 丈弥

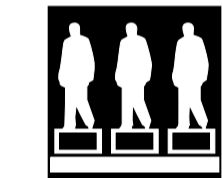
「不偏心」(2) 成長のパラメーター

今回も不偏心について考えてみたいと思います。

「聖イグナチオは霊操者に対して特に不偏心を重視し、この精神を育てることを霊操の重要な題目とした。聖人はこの点に於いて極めて熱心であり、また厳しかった」とアルペは語っています。

また、不偏心は人間の成熟度を示すパラメーターと表現することもできます。

グレゴリアン大学でも講師をしていたフランコ・イモダはこの成熟度に関して多くのパラメーターをHuman Developmentで紹介しています。その内の3つ、人間は自分と他者との関係のうちにある者としてのパラメーター、時間的にある者としてのパラメーター、そして、過程にある者としてのパラメーターを簡単に紹介します。



人間は生まれて間もなく

自分とそうでないものの区別を始めることとされています。この区別が健全になさねないと主観主義とか客観主義とかいうものに陥ります。

自分の欲求、要求、興味だけを満たし、社会における客観的価値や共通善に関心を示さない主観主義、一方で、自分に対して良いこと、自分の自由や価値を認めず、客観的な価値、社会的要求ばかりに目を向ける客観主義と呼ばれるものです。

二つ目の、時間的な存在とは、人間は時間と空間に限られた者であり、過去と未来を含んだ者であり、また自分と他者の関係の中で生きる者として、その内

のバランスが成熟度とつながります。

成熟した人は、どんな過去であれ、過去の現実を受け入れ、それを前に進む力に換え、自分の未来を創り上げていくことができる。イモダは考えます。

未熟とはこのバランスが取れず、過去に縛られ、今、現実という新しいものを否定し、ファンタジーという非時間的な世界に逃れてしまう可能性を含んでいます。

神さまの呼びかけに対して、この前に進む積極的な力によって、自分が神と他者のためにどうなれるのか、どのように創り上げられていくのかを神さまと共に応え続けられるとイモダは続けます。

三つ目のパラメーターは、先の二つのパラメーターを含んだものになります。この三つ目のパラメーターは次回見ていきたいと思えます。

参考文献

ペドロ・アルペ 「キリストの道 第一巻 原理と基礎」

神の啓示として、神の独り子が世に遣わされたことの具体的な証しでもあると言えましょう。

また、その啓示をガブリエルは「イエスと名付けなさい」という言葉を通じてマリア様に与えたのです（ルカ2・11）。

真の神であり真の人のみ人間を救いに与らせることができず。このことを福音記者ルカは旧約聖書を踏まえて、イエス様が神殿に捧げられる場面の前振りに織り込んでいるのではないのでしょうか。

がそこにいたわけではありませぬ。「マリアは月が満ちて、初めての子を産み」とあるように（ルカ2・6、7）、普通の人間のように誕生までの経過をたどりませんでした。ここにイエス様は神のよう

会 と 催 し 2月	
2日 (金)	主の奉獻
4日 (日)	年間第5主日
5日 (月)	▼ポツファイ神父命日 (1988年)
6日 (火)	日本26聖人殉教者
7日 (水)	みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
10日 (土)	中野アカデミー・教区本部・13時30分
11日 (日)	▼聖書の分かち合い・教区本部・14時
11日 (日)	▼小島芳武終身助祭叙階記念 (2019年)
11日 (日)	年間第6主日
11日 (日)	▼世界病者の日
11日 (日)	▼聖ヨハネ・パウロ二世教皇は、1984年2月11日 (ルルドの聖母の記念日) に使徒的書簡「サルヴィフィチ・ドローリス」苦しみとキリスト教的意味」を発表し、翌年の同日に教皇庁医療使徒職委員会 (後に保健従事者評議会となり、現在は総合人間開発省に統合) を開設しました。そして1993年からこの日は「世界病者の日」と定められ、毎年教皇メッセージが発表されています。
13日 (火)	病者がふさわしい援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な助けを得られるように、カトリックの医療関係者に対してだけではなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。医療使徒職組織の設立、ボランティア活動の支援、医療関係者の倫理的養育、病者や苦しんでいる人への宗教的な助けなども重要な課題です。
14日 (水)	司祭評議会・教区本部・14時
14日 (水)	灰の水曜日 (大斎・小斎)
18日 (日)	四旬節愛の献金 (四旬節中)
18日 (日)	▼出口市太郎神父命日 (1958年)
18日 (日)	▼川淵明神父命日 (2002年)
18日 (日)	▼四旬節第1主日
21日 (水)	▼奄美の宣教司牧を考える会
21日 (水)	▼中野アカデミー・教区本部・13時30分
22日 (木)	▼聖ペトロ使徒座
24日 (土)	▼聖書の分かち合い・教区本部・14時
24日 (土)	▼鈴木康由神父叙階記念 (2013年)
25日 (日)	▼四旬節第2主日
27日 (火)	▼教区の日ミサ・カテドラル・17時
27日 (火)	▼東條一浩神父命日 (2001年)
28日 (水)	▼中野アカデミー・教区本部・13時30分
【司教日程】 1日司祭生涯養成委員会 (東京)、7日中野アカデミー、8日幼保連盟総会、13日16日臨時司教総会 (東京)、18日奄美の宣教司牧を考える会、21日中野アカデミー、23日福岡大神学院閉校式、25日教区の日、28日中野アカデミー	
【祈りの意向】 祈りの意向	
【祈祷の使徒会】 教皇 終末期医療	
日本の教会 日本で働く外国人労働者	

《康由神父の聖書教室》70 イエスという名前(2)

この表現はエレミヤの預言の「わたしはあなたを母の胎内に造る前から／あなたを知っていた。母の胎から生まれる前に／わたしはあなたを聖別し／諸国民の

に込められているのではないのでしょうか。
この名前は大使ガブリエルから「胎内に宿る前に天使から示された名」です（ルカ2・21）。



この表現はエレミヤの預言の「わたしはあなたを母の胎内に造る前から／あなたを知っていた。母の胎から生まれる前に／わたしはあなたを聖別し／諸国民の

の言葉を語る者であるということを殊更強調していると考えられます。

聖霊によってマリア様の胎に宿ったとはいえ、いきなり「イエス様そのもの」

がそこにいたわけではありませぬ。「マリアは月が満ちて、初めての子を産み」とあるように（ルカ2・6、7）、普通の人間のように誕生までの経過をたどりませんでした。ここにイエス様は神のよう

告別式でのお別れの言葉II 要約

ありがとう、ハンマ神父様！

信徒代表 兩水新二
1963年11月に来日されたハンマ神父様、あなたは気心優しく、ユーモアに溢れた方でした。

ることができません。私の妻と同じ病にかかっておられた神父様、ドイツからのお迎えもありました。帰国はかありませんでした。どうか鹿児島の人となつてお眠り下さい。

レネプートル会代表

T・メニツヒ神父
中学時代から一緒に歩んできたハンマ神父様、ご苦労様でした。徳之島時代には2年間を一緒に過ごしましたね。

神父様は中学、高校、大学は一緒でしたが、私と違って優等生でした。音楽に、数学に、語学にと素晴らしい才能を発揮されました。ただスポーツだけは私の方が優れていましたね。

人々をいつぱい愛し、いつぱい愛された神父様、どうかゆつくり休んでください。そしてまたすぐに会いましょう。



YCC 2024 案内

今年度はコロナ以前に戻り、3泊4日の日程で開催されることになりました。出会いと学びとレクリエーションの楽しい集いです。中学生・高校生の皆さん、たくさんの参加をお待ちしております。

テーマ: 「苦しみから希望へ」
日時: 3月23日(土)~26日(火)
会場: 日向学院海の家(宮崎県日南市)
対象: カトリックの中学校・高等学校に通う生徒及び小教区に所属する中学生・高校生
参加費: 13,000円(予定)
岩崎正幸まで
TEL099 (268) 3121
FAX099 (268) 3122
Mail: iwazaki@lasalle.ed.jp
申込締切: 2月28日(水)

ましよう。

教区司祭団代表

郡山健次郎名誉司教
神父様から「日本人は心から福音を望んでいませんか?」と聞かれ、手応えのない日本での宣教の苦労が偲ばれたことを思い出します。そんな日本で60年余も働いて下さったこと、尊敬いたします。

そして宣教地・鹿児島で迎えられた死、家族の絆よりキリストへの愛を選んだ宣教魂を感じます。私もこれから派遣されたところで司祭として生き抜いてみたいと心から思わされました。ありがとうございました。



要理

キリスト教の歴史観は直線的なものではない。それは既に話しました。小説に始まりがあつて終わりがあつて同じです。そして神様が始めた歴史は神様が完成させてくださるのでありますから。

終わりが「終末」であり歴史が完成する時です。そしてこの時こそ神の国が実現する時であり、人間の救いが全うされる時でもあるのです。神様は私たち人間を愛してください。この愛に私たちも神様への愛と

四旬節愛の献金について

教皇は毎年、四旬節に向けてメッセージを発表し、キリストを信じるすべての人が四旬節の精神をよく理解して、回心と愛のわざに励むよう呼びかけます。この呼びかけにこたえて日本カトリック教会は、虐げられ、差別され、見捨てられ、いのちの危機にさらされていく人たちの共感を

大切にしよう一人ひとりに訴えるとともに、四旬節中の「愛の献金」を奨励しています。この「愛の献金」は、カリタスジャパンを通して海外諸国と日本各地に送られ、難民や孤児、そして、貧困、失業、飢餓などに苦しむ多くの人々のいのちを守るために、また彼らの自立を助けるために使われます。

ガザ人道支援募金 =カリタスジャパン=

10月7日に始まったイスラエルとの敵対行為の激化以来、ガザ地区では少なくとも3千8百人が死亡し、1万3千人余りが負傷しています。国際カリタスから要請を受けたカリタスジャパンでは、「ガザ人道支援募金」の受付を決定しました。各小教区で集まった募金は、直接、カリタスジャパンに送金してください。募金受付口座は次の通り。郵便振替: 00170-5-95979 加入者名: 宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン ※記入欄に「ガザ人道支援」と明記してください。

能登地震「災害 緊急支援募金」受付開始 送金先はカリタスジャパンと名古屋教区

1月1日(月)発生した能登地震では、石川県で221人の死者、新潟、富山、石川、福井の各県で1100人を超える負傷者が出たほか、2万人を超える人が避難生活を続けている(1月14日現在)。被災地では水道や浄水設備が損傷し水が使えないほか、停電が続いている地域もあるという。

0-5-95979 加入者名: 宗教法人カトリック中央協議会カリタスジャパン ※通信欄に「能登地震」と明記のこと。

また教会内支援(教会の修復や被災信徒への見舞金)などを希望する場合は、被災当該教区である名古屋教区への送金となっている。振込先は以下の通り。

《振込先》 郵便振替番号: 0017

《振込先》 郵便振替番号: 00810-5-50605 加入者名: カトリック名古屋教区 ※通信欄に「のと地震」と明記のこと。

神の国の到来について

隣人愛をもって応えなければなりません。神様から人間へという下向きの矢印と人間から神様へという矢印がぶつかり合う時に神の国が到来します。神の国が到来したことのしるしはいエス様の来臨です。だからミサの中で「主

の死を思い、復活を讃えよう、主が来られるまで。」と歌うのです。ところで前回、「神への愛と隣人愛がこの地上に満ちる時、神の国が実現するのです。」と書きました。みなさんは本当にこんなことが起こると思いますか? この地球上のすべての人がカトリ

ック信者になるなんてことは絶対にありません。でもそれで良いのです。TVコマーシャルでも街中でも値引きが強調されます。神様も20~30%くらいはおまけしてくれるはず。大切なことは神の国とは人間の努力によって実現するものではなく、神様の愛によって完成するものであるということです。

この世の終わりとは私たちの希望が実現する時です。この希望のゆえに教会は共同体として福音を告げ知らせ、後の時代に信仰を受け継いでいく使命を担っているのです。教会が存在する本質的な意味、また目的はここにあるのです。